

研究部通信



第 3 号

平成 28 年

6月6日

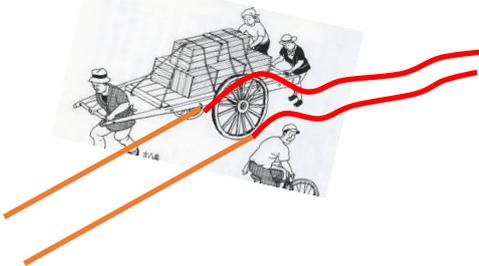
職員研修(理論研)を振り返って～キャリア教育特集～



5月27日と6月3日の二日間、「児童生徒のキャリア発達を促すための授業づくりの視点」と題して広島大の竹林地毅先生による研修を行いました。2日間でのべ124名の先生が聴講され、2回連続で参加されている先生方も沢山おられました。2回に亘る研修を振り返ります。

「キャリア教育とは」

文部科学省はキャリア教育について「今、子どもたちは、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力が求められています。この視点に立って日々の教育活動を展開することこそが、キャリア教育の実践の姿です。」と説明しています。『キャリア』とか『自立』と聞くと、仕事をして独り立ちすることをイメージする人もあるかもしれませんが。しかし、『キャリア』とは元々「轍(わだち)」を語源とする言葉であり、児童生徒にも、教師にも一人一人に異なるキャリアが存在しています。今までどう歩んできたか、というのがその人の轍となり、「今」のその人の物事への向き合い方に表れます。そして「これからどう歩むか(生きるか)」「自分の人生を大切にしたい」「人と一緒に生きていこう」「社会の役に立つことをしよう」・・・そんな人生観・社会観・職業観を大切に育てていくことがキャリア教育の重要な捉え方です。



キャリア教育というと、将来のことと考えられがちであるが、むしろ「今」という時間の大切さを認識することが鍵である。「この子にとって、今だからしなければならないこと、今だからできること」は何かを考えて、児童生徒に働きかけることである。キャリア教育では、「今」という時間が最も重要なのである。今は現実であり、かつ将来の礎であり、今なら過去の遅れを取り戻すことができるからである。(渡辺三枝子)

コラム「今、なぜ、キャリア教育なのか」

以下の文章は、国立特別支援教育総合研究所の宍戸和成理事長が先日のメールマガジンに寄稿されていた内容を抜粋したものです。私たち自身も「なぜ」「なんのための」キャリア教育なのかという『そもそも論』を大切にしながら、授業づくりを進めていきたいですね。

キャリア教育が話題になって以降、「キャリア教育」という言葉を目にする機会が増えた。研究テーマに掲げられる言葉として用いられているせいだろうか。でも、「今、なぜ、キャリア教育なのか？」ということを追求めたものはあまり見掛けなかった。それが気になっていた。今まで用いてきた「進路指導」や「職業教育」とはどのようにすみ分けているのだろうか、あるいは、「キャリア教育」という言葉を用いることによって、どのような教育を志向しているのか、そして、それをどのように同僚や保護者に説明していくのか、そんなことも気になる。社会的な背景、これまでの教育の振り返り、そして、これからの社会状況を踏まえて、キャリア教育が何を指すか、そんなことについても洞察したいものだと思う。今、とにかく、ハウツー論に関心が集中することが多い。すぐ、子どもの指導に役立てるためには欠かせないことでもある。しかし、指導を長続きさせ、新たな工夫を盛り込むためには、その指導法等の背景にある思想や原理についても考えをめぐらす必要がある。

キャリア発達を促す「経験」

小学部 → 高等部



小学部段階で大切にしたいこと

- ・「できる」体験を積み重ね、自信をもてるようにする
- ・主体的にめいっぱい活動しきる機会を設定する
- ・好きなことや興味を示したこと・ものを出发点として大切にすること。また、そのきっかけづくりを大切にすること
- ・好きなこと・ものだけではなく、様々な体験・経験を広げる機会やチャレンジする機会を設定する

キャリア教育ケースブック 菊地一文編著 ジアース教育新社

中学部段階で大切にしたいこと

- ・「できる」ことを大切にしながら、この時期の特徴(大人の社会に対する関心をもち、自己と向かい合うことを体験する)をふまえた対応をする
- ・生徒が「いま」という現実に向かい合う機会や、本人にとっていまより先のすべてを含む広義の「将来」への関心が高まるようにする
- ・生徒が多様な体験ができるようにし、体験をとらえて将来へのよいイメージをもてるように工夫する
- ・他者や環境との関係で折り合いをつけることや、本人にとっての諸活動に対しての意味付けがより求められる

キャリア教育ケースブック 菊地一文編著 ジアース教育新社

高等部段階で大切にしたいこと

- ・希望と不安を抱えた時期であることに留意し、生徒が困難や失敗とも向き合えるよう配慮し、生活上または学習上経験したことについて自分なりに受け止め、意味付けし、乗り越えられるよう支援することが求められる
- ・生徒の諸活動における目標設定や振り返りをこれまで以上に重視する必要がある
- ・現実問題として夢と現実のギャップにより、思うようにならないことも増えるため、本人がどのように折り合いを付けていくかも重要な課題となる
- ・卒業後の職業生活を維持するためには、ワーク・ライフバランスを考える必要があり、余暇に関する学習も重要

キャリア教育ケースブック 菊地一文編著 ジアース教育新社

指導において重要な土台となるのは、子どもが自己を肯定的に捉える気持ちです。これは、自分にもよいところがあると認める感情であり、「自己肯定感」や「自己有能感」と言われることもあります。自己を肯定的に捉えることができるような指導は、各教科等の指導も含め学校の教育活動全体を通して行われるものですが、学習指導要領解説には「自立活動の指導で特に重視されなければならないこと」(P86)と書かれています。竹林地先生の講話の中に、『レジリエンス』(=失敗しても折れないしなやかな心)についてのお話がありましたが、このような指導の基盤にあるべきものも「自己肯定感」です。昨年度、本校卒業生に『学校でもっと学んでおけば良かった』ことを尋ねたところ、「ちょっとしたことでへこたれない

心」「もっと強い心を持っておけば良かった」等の回答をした離職経験者がいました。うまくいかないこと、思い通りにならないこと等があっても立ち直ったり、受け流したり、折り合いを付けたりする力を育てていくことは、本校の児童生徒にもとって非常に大切なことだとあらためて感じました。失敗から学ぶことは、健常の子どもたちと比較して知的障がいのある子どもたちには容易ではないことも考えられることから、指導を行う際には、周到な計画と準備、工夫が必要です。また、単に『言って聞かせる』という子どもが受け身のアプローチだけでは身に付きにくいので、子ども自身が主体的に経験、体験し、自分なりに考え、判断したり表現したりすることを通して学んでいくことが重要となります。以下、森脇勤先生の言葉にもありますように、私たち教師が、児童生徒一人一人の「節」をマネジメントしていくことが求められています。

これから未来に向かって伸びていく児童生徒達の姿は、土から出てきた竹の子が大空を目指して真っ直ぐに伸びていく姿に見えてきます。竹の子は、成長していく過程で幾つもの「節」を作りながら空へ空へと伸びていき、立派な竹になります。雨が降り風が吹いても、雪が積もっても、竹は元に戻る「しなやかさ」を持って成長していきます。それは、成長していくプロセスの中で「節」を作っているからです。(中略)「節目」のでき方は一人一人違います。(中略)「節目」は必ず誰にもあります。(中略)卒業後の職業生活や家庭生活を「しなやかに」生きていくためには、一人一人の児童生徒の「節目」をしっかりとつくるのが大切であり、これから先も生徒自らがつくり続けていくことが必要となってきます。

(引用：森脇勤 「学校のカタチ」)

キャリア教育を知るための十冊

試し読みをしてみたいものがあればお気軽に研究主任までお声かけください。



キャリア教育ケースブック 菊地一文 編著

キャリア教育ガイドブック 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 編著

実践キャリア教育の教科書 菊地一文 編著

教科の授業 de ライフキャリア教育「何を」「なぜ」その教科、学部で学ぶのか 渡邊昭宏 著

みんなにライフキャリア教育「仕事力」+「暮らす力」「楽しむ力」で「生きる力に」 渡邊昭宏 著

自立活動の授業 de ライフキャリア教育 キャリア発達を支援する手立てと授業づくり 渡邊昭宏 著

将来の「働く生活」を実現する教育 愛媛大学附属特別支援学校 著

キャリア教育を取り入れた特別支援教育の授業づくり 実践編 上岡一世 著

「キャリア発達支援研究 I」「キャリア発達支援研究 II」 キャリア発達支援研究会 編著